

乳児の理解につながる授業を目指して —乳児保育の学びに関する調査から—

Aiming for Lessons that Lead to Understanding of Babies —From a Survey on Learning about Infant Care—

福鹿 慶子 北村 麻樹¹
FUKUSHIKA Keiko KITAMURA Maki¹

キーワード：乳児保育，乳児，保育者，乳児理解

Key Words：Infant Care, Infant, Childcare Training, Infant Understanding

1. はじめに

近年，日本は少子化が進んでいる．2019年度の出生数は86万5,239人で，合計特殊出生率は1.36である¹⁾．少子化ではあるが，保育所等を利用する児童の数は2020年4月時点で274万人となっており，前年より5万8千人増加している²⁾．1，2歳児では，2012年は保育所等の利用率が33.0%であったのが，2020年には保育所等利用率が50.4%と大幅に利用が伸びている．2020年の待機児童数に関しても3歳未満児が全体の87.1%を占めており，そのうち，特に1，2歳児が77.2%であり，3歳未満児の保育の需要が高まっていることがわかる²⁾．

2. 目的

このような社会状況を背景として，平成29年3月に告示され，平成30年4月より適用された保育所保育指針³⁾では，乳児^{注1)}・1歳以上3歳未満児の保育に関する記述の充実が記されている．3歳未満児の保育意義を改定前の保育所保育指針より明確化し，その内容について一層の充実を図ったものとなっている．発達過程の最も初期に当たる乳児期には，「養護の側面が特に重要」³⁾であることから，生活や遊びが充実することを通じて子どもたちの身体的・社会的・精神的発達の基盤を培うという考え方に基づき，ねらい及び内容を「身体的発達に関する視点『健やかに伸び伸びと育つ』，社会的発達に関する視点『身近な人と気持ちが通じ合う』及び精神的発達に関する視点『身近なものに関わり感性が育つ』」⁴⁾としている．1歳以上3歳未満児の時期においては，短期間のうちに著しい発達が見られることや発達の個人差が大きいことを踏まえ，一人一人の子どもに応じた発達の援助が適時，適切に行われることが求められることから，保育のねらい及び内容を子どもの発達の側面からまとめて編成した「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域が新たに設けられた．

2017年には保育士養成課程等検討会では保育士養成課程の見直しがされ，保育を取り巻く社会情勢の変化を踏まえた，より実践力のある保育士の養成に向けて，教科目の名称や教授内容等について検討が行われた．その中に乳児保育の充実が挙げられた．

乳児保育に関する内容を充実し，教育効果を高めるためには，演習科目に加えて，講義科目を新設し，該当保育に関する理念や現状，保育の体制など，必要となる基礎的事項について理解を深めた上で，具体的な保育の方法や環境構成等を学び，より円滑に保育の実践力の習得につなげていくことが必要である⁵⁾．

とあり，従来の「乳児保育（演習2単位）」から，「乳児保育I（講義2単位）」「乳児保育II（演習1単位）」となり，内容を充実することとなった．これらの乳児保育を取り巻く動き

¹ 大阪国際大学短期大学部幼児保育学科

表1 「乳児を保育する上で必要だと感じる知識や技術」調査記述内容のグルーピング

小グループ	中グループ	大グループ
<ul style="list-style-type: none"> ・怪我をした時の対応 (20) ・熱を出した時の対応 (18) ・乳児の病気への知識 (10) ・アレルギーに関する知識 (食物アレルギー以外) (7) ・乳幼児突然死症候群について (2) ・AEDの使い方 (1) 	乳児の命を守るために必要な知識を身につけたい	① 乳児が安全に生活するための学び
<ul style="list-style-type: none"> ・安全な保育室の環境についての知識 (22) ・乳児が安全に遊ぶおもちゃについて (10) ・安心できる場の設定をどうするか (5) 	乳児が安心・安全に生活できるための知識を身につけたい	
<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食の知識 (5) ・除去食に関する知識 (4) ・調乳の仕方 (3) 	食に関する知識をもっと学ばなければいけない	② 乳児の衣・食に関する学び
<ul style="list-style-type: none"> ・おむつをスムーズに替える力 (21) ・乳児が食べやすい食事の援助 (15) ・泣いているときの対応方法 (12) ・時間をかけずに着替えをする方法 (8) ・上手なミルクの飲ませ方 (8) 	乳児にとって快適な支援の仕方について学びたい	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きの援助の方法 (4) ・乳児の手を上手に洗う方法 (2) ・清潔な保育室を準備する力 (1) 	年齢が低いと衛生面に気を付けなければいけない	③ 衛生面に関する学び
<ul style="list-style-type: none"> ・乳児が伝えたいことをくみ取る力 (10) ・一人一人に合った関わりができる力 (8) ・愛着関係を築く力 (7) ・乳児の思いに寄り添う力 (6) ・乳児を惹きつける力 (5) ・信頼関係を築く力 (4) ・乳児の思いを代弁する力 (2) ・乳児に共感する力 (2) 	自分の言葉で伝えられない乳児たちの思いにこたえる力を身につけたい	
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合った遊びを知る (10) ・年齢に合った手遊びに知識 (7) ・年齢に合った絵本の知識 (6) ・一対一での遊び (2) ・わらべ歌 (2) ・触れ合い遊び (1) 	保育(遊び)の知識を向上させたい	④ 保育を行う上での保育技術力
<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの技術 (8) ・歌をうたう技術 (4) ・壁面をつくる技術 (2) 	保育の技術を向上させたい	
<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳を書く力 (11) ・記録を書く力 (8) ・カリキュラムを考える力 (1) ・行事を考える力 (1) 	書類を適切に作成する力を身につけたい	⑤ 人間関係を築く力
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に乳児のことを伝える伝達力 (12) ・保護者との信頼関係を築く力 (7) ・保護者と情報共有できるような力 (4) 	保護者との連携が密になるので保護者との良い関係を築ける力を身につけたい	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者同士で情報共有する力 (4) ・保育者同士で助け合える力 (2) ・報告・連絡・相談がスムーズにできるような技術 (2) 	複数で担任をする上で協力したり協調しあったりする力は必要である	

からも学生の乳児に対する学びがより一層必要であることがわかる。

しかし、生活の中で乳児^{注2)}との関わりが少ない学生は、乳児との関わりに不安を感じている者も多い。そのため、学生が乳児を保育する上で何が重要だと感じているのかを明らかにすることで、授業を通して、学生が重要と感じる乳児への知識や技術を重点的に教授することが、学生の乳児との関わりに対する不安感の軽減につながるのではないかと考えた。本稿では、学生が乳児に関わる上で必要であると感じる知識や技術について、アンケート調査を実施し、その結果から、今後の授業展開方法を検討した。

3. 調査方法

本学地域こども学科 2019 年度 1 年生 66 名の後期授業「乳児保育 II (演習 1 単位)」を受講している学生に対し 2020 年 1 月^{注3)}に、質問紙を配布した。設問は、乳児を保育する上で必要だと感じる知識や技術について、の 1 点のみで自由記述解答である。

調査対象に授業内で、記述内容を公開する場合があること、公開する場合は匿名を遵守する旨を説明した。また、記述で得られた結果は本研究の目的以外では使用しないこと、成績には関係しないことを口頭で説明した。

66 名の学生の「乳児を保育する上で必要だと感じる知識や技術」についての自由記述回答を調査者である筆者がラベル化した。一人の回答者が複数の内容を回答しているため、回答数分のラベルに分けた。「乳児を保育する上で必要だと感じる知識や技術」の質問に対し、330 件^{注4)}の回答を得た。その中から 316 件の記述を有用性のある記述としてピックアップし分析対象とした。しかし、学生の記述には誤字や脱字、主語が抜けている、助詞の不自然な使用の仕方があったため、グルーピングしやすいように手直しを行った。

データは、川喜田⁶⁾の手順に基づいて KJ 法を用いた。ラベル作り、グループ編成をし、それを図解化してグループ間の関係性を明らかにし文章化していくという手順で行った。316 枚のラベルを共通性のあるラベルのグルーピングを行い、グループを編成した。小さなグループから作成し、次に小グループ同士をグルーピングし、中グループを作成した。最終的には大グループに集約し、結果を表 1 にまとめた。次にこれらのグループを図解化(図 1)し、それを文章化し解釈を行った。

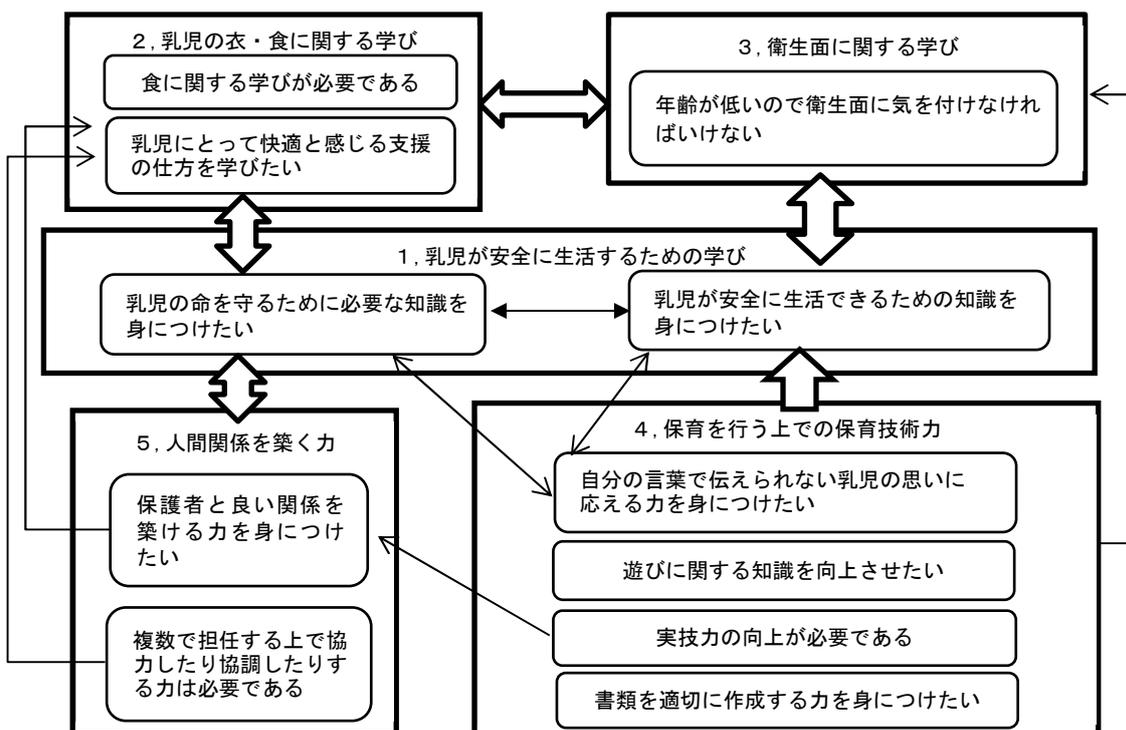


図 1 「乳児を保育する上で必要だと感じる知識や技術」調査学生による記述内容の図解 (中・大グループのみの表記)

4. 結果

4-1 図解の文章化

乳児を保育する上で、乳児が安全に生活するための学びは基本となる。乳児は言葉で自分の思いを十分に伝えられないため、乳児が快適に安全に生活できるような環境を整えて、安心感を与えられるような関わりができるような知識を身に着けることが重要である。また、知識だけでなく、乳児への食事の援助や排泄、着替えの援助、衛生面に関する指導などの技術面も、快適に生活する上で必要といえる。乳児の担当は複数の担任で構成されているため、担当同士で協力しあいながら乳児に関わることで乳児の安全な生活にも繋がっていく。また、保護者と連携することで乳児の情報交換ができ、健康面での配慮ができたり、成長への支援を共有できたりする。それは乳児の安全に生活するということにも繋がっていく。保育をする技術に関しても、乳児の健やかな成長につながるような関わりや遊びを行えるような技術向上は常に必要といえる。保育者^{注5)}との関わりや遊びは乳児の内面を磨いていくことになるので、乳児の生活には欠かせない保育者の知識・技術といえる。

4-2 グループピング結果

「乳児保育 I・II」の授業ともに、シラバスを「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について」⁷⁾に沿って作成しており、授業を展開している。大グループの①乳児が安全に生活するための学び、②乳児の衣・食に関する学び、③衛生面に関する学び、④保育を行う上での保育技術力、⑤人間関係を築く力、はすべて「乳児保育I」ないし、「乳児保育 II」の授業内で触れており、学生が授業において学んだ事柄より「乳児を保育する上で必要だと感じる知識や技術」について記述したと考えられる。

4-3 記述が多かった項目

中グループ「乳児の命を守るために必要な知識を身につけたい」カテゴリーの小グループで挙がっている、「怪我をした時の対応 (20)」、「熱を出した時の対応 (18)」の記述は多く、「怪我をした時の対応」の20件の記述のうち、「乳児の怪我は大人が気付かなければ乳児は伝えられないのですぐに対応する力が必要」というものが7件あった。年齢が低いからこそ特に気を付けたいと多くの学生が考えているようである。「乳児が安心・安全に生活できるための知識を身につけたい」カテゴリーの小グループ内の、「安全な保育室の環境についての知識 (22)」や、「乳児が安全に遊ぶおもちゃについて (10)」の記述も多く、特に、「安全な保育室の環境についての知識」では、22件の記述の中に、「乳児は危ないことを言葉で伝えてもわからないことがあるので、できる限り安全な保育室にする必要がある」という内容記述が8件あり、乳児が生活する保育室には危険要因を避けておくことが必要であるということを学生が理解していることがわかる。「乳児にとって快適な支援の仕方について学びたい」カテゴリーの小グループの内容では、「おむつをスムーズに替える力 (21)」や、「乳児が食べやすい食事の援助 (15)」、「泣いているときの対応法 (12)」が多かったが、これは授業では乳児の人形を使っての演習に留まっており、実際の乳児に関わっての体験活動ができないので、実際の乳児に触れたときのことを想定して必要に感じた内容であることがわかる。「自分の言葉で伝えられない乳児の思いに応える力を身につけたい」カテゴリーの小グループでは、「乳児が伝えたいことをくみ取る力 (10)」を答えた学生が多く、自分で思いを伝えられない乳児への気持ちを読み取って、それを代弁することで乳児に安心して過ごしてほしい、と学生が感じ取ったことがわかる。「書類を適切に作成する力を身につけたい」カテゴリー内では、「連絡帳を書く力 (11)」の記述が多かった。11件の記述内に「文章力がないので連絡帳をしっかり書けるようになりたい」という記述が5件あり、保護者に乳児のことが伝わる文章を書きたいと考えていることがわかる。「保護者との連携が密になるので保護者との良い関係を築ける力を身につけたい」カテゴリーでは、小グループ内にある、「保護者に乳児のことを伝える伝達力 (12)」が多く、12件の記述内には「保護者とうまく話せる自信がないが、乳児のことが保護者に伝わらなかつたら困るので、伝える力が必要だ」という記述が7件あり、保護者との会話には自信がないものの、乳児の思いを代弁し伝えることは保育者の役割だと認識

していることがわかる。

4-4 記述の少なかった項目

中グループ「食に関する知識をもっと学ばなければいけない」カテゴリーの小グループにある、「離乳食の知識 (5)」、「除去食に関する知識 (4)」、「調乳の仕方 (3)」に関する記述は少数である。乳児保育内の授業では副次的な学びであるため、すぐに必要な知識や技術であると思わずらなかつたようである。「年齢が低いと衛生面に気を付けなければいけない」カテゴリーの小グループの記述である、「歯磨きの援助の方法 (4)」、「乳児の手を上手に洗う方法 (2)」については、授業内で体験していない内容であるが、乳児の衛生上必要な技術であると感じたようで、乳児の生活を想像し必要な力を考え出したことがわかる。「保育の技術を向上させたい」カテゴリーの小グループ内の記述、「ピアノの技術 (8)」、「歌をうたう技術 (4)」、「壁面を作る技術 (2)」に関しては、「乳児保育 I・II」の授業内では行わない内容であり、また、乳児に限らず、どの年齢に対しても必要な技術であるが、乳児の保育においても重要であると考えたようである。「複数で担任をする上で協力したり協調しあったりする力は必要である」カテゴリー内の小グループの記述、「保育者同士で情報共有する力 (4)」、「保育者同士で助け合える力 (2)」、「報告・連絡・相談がスムーズにできるような技術 (2)」に関しては、授業内でも職員間の連携や協働について教授しているが、記述は少なかつた。

5. 考察

学生の「乳児を保育する上で必要だと感じる知識や技術」の記述では、①乳児が安全に生活するための学び、に対する記述が多かつた。保育現場は乳児の命を守る場所であるということを認識していることが伺える。乳児を保育する現場は生活の場であるため、養護面（生命の保持、情緒の安定）が重要であることから、乳児が安全に生活するための学びは重要である。自分では、危ないことをしない、や、体調が悪くなったらすぐに伝える、などができない乳児の生活を守ることの大切さに気付いている学生が多いことが明らかとなった。②の乳児の衣・食に関する学び、についても学生の記述は多い。食べることや衣服を調整することも難しい年齢では、それをスムーズに行う保育者がいることで乳児の情緒の安定が図られるが、これらに適切に対応する保育者の役割の重要性を感じているようである。③衛生面に関する学び、では、記述内容が少ないものの、乳児と関わる際には衛生面に気を配ろうと考えていることがわかる。実際に行ったことのない内容であるからこそ、もっと知識や技術を身につけて、実践するときには適切に関わりたいという学生の思いが感じられる。④保育を行う上での保育技術力、では身につけたい知識や技術は幅広いことがわかる。学生自身が苦手と考えている内容や、知識不足と感じている内容を記述しているようである。⑤人間関係を築く力、では、保護者との関係を気にしている学生が多く、保育所保育指針にもある、保護者との相互理解⁸⁾にある、日常の保育に関連した様々な機会を活用し子どもの日々の様子の伝達や収集、保育所保育の衣との説明などを通じて、保護者との相互理解を図るように努める、ことを重要と考えていることがわかる。保護者との連携に関しては目を向ける学生が多い一方、保育者同士での連携の記述は少数であり、記述が少ないという現状を見ると、学生の中で、乳児の保育の中では重要度が低いと感じているようである。すべての項目において授業で教授しているが、学生の中で重要と感じるもの、身につけなければいけないものが明らかとなり、また学生があまり意識を向けていない知識や技術についても明らかとなった。

学生の記述が多かつた知識や技術に関する内容は言うまでもなく重点的に教授していかなければならないが、記述が少なかつた内容に関しても、授業内では伝わらなかつた可能性も考え、今後、重点的に教授する必要があると考える。

6. おわりに

今後、乳児保育の重要性が増す中で、乳児と関わった経験の少ない学生にとって、乳児の

生活をイメージし、乳児に必要な援助を理解することは必要である。学生が乳児を育てる上で重要だと感じていることを明らかにすることで、今後、学生が身につけていかなければならない知識や技術を明確にすることができた。

保育現場は命を守る職場であるということから、乳児が安全に過ごせるための環境設定や、安全対策、怪我への対応、病気への知識が必要である。また、乳児は自分で自分のことをすることが難しい年齢であることから、保育者の関わりがいかに大切かという保育者の役割をしっかり学ぶことが重要である。保育は一人で行うものではないため、保護者との連携、保育者同士の連携は欠かせない。保育者と保護者が、子どもの成長、子どもの安全な生活といった目的を共有することで、密に連携し、協力的な関係を築き上げていくことが求められている。また、保育者同士の連携においては、日々の保育の中で乳児の姿を継続的に対話することが、学び合い、高め合うことだと考えられる。そういったことから、保育を行う上で保育技術の向上を図ることや人間関係を築くためには、日頃から言葉づかいに気を付け、教員や学生同士コミュニケーションをとることが学びにつながると思う。学生は「教えてもらう」という受け身ではなく「自ら学ぶ」姿勢を心がけ、教員はこれらの知識や技術を習得することで自信に繋げられるような授業展開が求められる。

注釈

注1) 乳児とは、1歳未満児童福祉法第4条第1項では「生後1年未満の者」と定義されている⁹⁾。

注2) 一般的には出生から満1歳に達するまでの0歳児をさすが、保育所保育において「乳児保育」というと、0歳～3歳未満児を対象にして呼ぶことがほとんどであるため、本稿では、0歳～3歳未満児を乳児と表記することとする。

注3) 乳児保育Ⅱの授業は1年次学生を3クラスに分けて授業を行っており、3クラスとも乳児保育Ⅱの14回目の授業で質問紙を配布した。

注4) 乳児を保育する上で必要な知識や技術に関する以外の記述、時間に余裕を持って行動する、掃除の仕方を学ぶ、清潔な服装に心がける等の14件の記述は省いた。

注5) 保育者とは、「幼稚園や保育所で直接子どもの保育にたずさわるものについての共通の働きに共通した言葉」⁹⁾である。本学においては、保育士・幼稚園教諭の養成を行っていることも踏まえて、幼稚園教諭・保育士を指す言葉として保育者と表記する。

引用・参考文献

- 1) 厚生労働省：「令和元年（2019）人口動態統計（確定数）の概況」結果の概要，https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei19/dl/02_kek.pdf（2020.10.23）
- 2) 厚生労働省：「保育所等関連状況取りまとめ（令和2年4月1日）」，<https://www.mhlw.go.jp/content/11922000/000678692.pdf>（2020.10.23）
- 3) 厚生労働省編：『保育所保育指針解説』，フレーベル館，p.87（2018）
- 4) 3)と同書，p.89
- 5) 保育士養成課程等検討会：「保育士養成課程等の見直しについて～より実践力のある保育士の養成に向けて～（検討の整理）（2017）」，p.4，https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumukahouko/kusyo_1.pdf（2020.10.23）
- 6) 川喜田二郎：『KJ法入門コーステキスト4.0』，KJ法本部・川喜田研究所（1997）
- 7) 保育士養成課程等検討会：「保育士養成課程等の見直しについて（検討の整理）[報告書（2017）別添1保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について]」，<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/betten1.pdf>（2020.11.1）
- 8) 3)と同書，p.333
- 9) 森上史郎，柏女霊峰編：『保育用語辞典 第8版』，ミネルヴァ書房，p.182（2015）
- 10) 厚生労働省：「児童福祉法」，<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/touchi-01.pdf>

(2020.10.23)

- 11) 田中博晃：「KJ法入門：質的データ分析法としてKJ法を行う前に」、『より良い外国語教育研究のための方法：外国語教育メディア学会（LET）関西支部メソドロジー研究部会2010年度報告論集』, p.17 (2011), <https://www.mizumot.com/method/tanaka.pdf> (2020.10.23)
- 12) 碓氷ゆかり, 清水益治, 千葉武夫, 森俊之, 西村重稀, 成田朋子, 水上彰子, 青井夕貴, 吉岡眞知子, 波田埜英治, 中島一：「乳児保育の3つの視点と3歳未満児の5領域のねらい及び内容を反映した保育に関する研究」、『保育科学研究 日本保育協会企画情報部』, 10, pp.1-28 (2019)
- 13) 厚生労働省：「保育所保育指針解説」, フレーベル館 (2018)
- 14) 小山玲子, 鳥海弘子：「保育者養成校における「乳児保育」の授業の在り方：学生の学びと理解についての調査から」, 『子ども教育研究所紀要』, 15, pp.63-74 (2019)
- 15) 後藤由美：「乳児保育における愛着を育む保育者の役割」, 『瀬木学園紀要』, 14, pp.37-44 (2019)
- 16) 瀧名潔, 保木井啓史, 境愛一郎, 中坪史典：「KJ法の活用は園内研修に何をもちたすのか：保育者が感じる語り合いの困難さとの関係から」, 『教育学研究ジャーナル』, 17, pp.21-30 (2015)
- 17) 藤重育子：「保育専門科目『乳児保育』における授業展開についての再検討」, 『園田学園女子大学論文集』, 52, pp.109-115 (2018)
- 18) 船越利代子：「“乳児保育”授業における課題：保育所実習アンケート分析から」, 『つくば国際短期大学紀要』, 38, pp.1-15 (2010)
- 19) 保育士養成課程等検討会：「保育士養成課程等の見直しについて～より実践力のある保育士の養成に向けて～（検討の整理）（2017）」, https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumukahouko/kusyo_1.pdf (2020.10.23)

